

【提出様式】 令和5年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 西池袋中 学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
449	195	28	13

領域	豊島区教育ビジョン 2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																自己評価概要	学校関係者による評価		次年度に向けた改善策		
				児童・生徒				保護者					地域					教職員				学校関係者評価の意見		評価	
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3		2				1
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	81	75	9	4	26	4	5	1	0	3	17	11	0	0	小中9年間を通して継続した児童生徒の支援を検討することができた。また、小学生体験授業も実施することができた。	関係機関と連携を図り、困り感のある子の情報も民生委員の間でも上がっており、連携を密にしていると感じている。	A	様々な支援や多様化する内容に対し、西池袋中ブロック校として9年間を見通した支援体制や支援のあり方を充実させ、課題解決を図っていく。			
			学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。		52	95	25	4	19	8	4	0	0	1	16	12	0	0	生徒の学習権の保障に力を入れた。また、教室に入ることができない生徒へ向けた学習環境の整備にも努めてきた。豊島区の学力向上の研究指定校としてCBTを利用した授業改善にも取り組み、授業改善に励んだ。	ICT機器やタブレットを使用して授業を行う様子が定着してきている。時代に合わせ取り入れていくべき技術の選定にさらに検討を進めて欲しい。またいつでも学習できるように学習センター等を解放したり、支援員をつけたりしたことは良いことだと感じている。	A	オンラインでの授業配信を継続し、学びの保障に努めるだけでなく、全教職員が分かる授業を実践するためにCBT等の使用を推進して授業改善に努めていく。また、関係機関と協力し合い、全生徒への学習権の保障に努めていく。			
II	確かな学力の育成	II-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		62	94	7	4	28	5	7	0	0	1	15	13	0	0	道徳授業地区公開講座では大幅に参加者が増え、保護者、地域、教員が活発に意見交換を行うことができた。また、土曜の授業公開の際にも道徳の授業を実施し、本校の道徳教育の周知へ繋がったと考えている。	道徳授業地区公開講座はとても貴重な会であると感じる。答えのない問いに対して、今の生徒達がどのように考えているのかを保護者や地域の方々が直接体験できたことはとても意義深いと感じる。次年度も土曜日に実施して欲しい。	A	道徳授業地区公開講座は今年度同様土曜日に実施し、より多くの地域や保護者の方々と意見交換することで生徒の豊かな心の醸成を目指し、暖かい雰囲気づくりに努めていく。道徳の授業を要として、各教科においても命の教育にも力を入れ、学校HPや学校だより等で取組の様子を発信していく。			
			学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		76	82	8	4	25	8	3	0	0	2	19	9	0	0	健康やかな体の育成については体力向上、食育ともに肯定的な意見が多かった。特に食育に関しては、給食の時間に食の安全について考える時間を設け、昨年度よりも大幅に肯定的な意見が増えた。	学校保健委員会の会議に参加したさいに充実した取組を拝見した。地域としても生徒の健康維持に向け、できる限りのサポートをしつつ、食育等に関する内容の周知にも協力していきたい。	A	様々な活動が制限される中で、健康な生活を送れるようにするために、自らの健康や体力の向上について考え、次年度も実践する場を意図的につくっていく。食育を家庭と連携するために給食だより等で食育に関する情報を学校から発信していく。			
III	豊かな心の育成	III-2	学校は、生命を大切にす態度や思いやり、優しい心を育てている。		62	74	18	4	37	6	7	0	0	0	19	9	0	0	いじめ防止に対する学校全体の取組に関しては概ね良かった反面、特別支援教室等に関しても、分からない「分からない」の回答が昨年度同様に多いため、周知の方法を検討していく。	いじめ防止に関する取組を学校全体で力を入れている様子は年間を通して感じられ、素晴らしい。また、特別支援学級との交流及び共同学習についても素晴らしいと感じている。周知の方法が確立されていないので周知に向けた対策も考えて欲しい。	A	いじめアンケートだけでなく生徒一人一人に寄り添いながら学校としていじめの未然防止に努めていく。また組織的な対応に力を入れ、その取組を保護者会、学校HPや学校だより等で周知していく。また、インクルーシブ教育をさらに推進し、HPや学校だよりだけでなく、土曜授業時にも交流及び共同学習に取り組み、その様子を保護者や地域の方に参観してもらうことを通じて学校の取組を発信していく。			
			学校は、子ども達の体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		74	88	12	3	18	9	4	0	0	0	19	9	0	0	本校の特徴として「落ち着いた学校」「あいさつの活発な学校」という声がよく聞かれる。土曜授業時の参観者アンケートでも同様の声が多く寄せられている。その際の意見にタイムリーに返答することができていない点で「分からない」に繋がってしまったと考える。	どの生徒のケースでも校長、副校長をはじめ全教職員が真剣に向き合っていると感じている。にしまる一むの開設や人員の確保も進んでおり、改善をはかっていると感じている。	B	アンケート等で寄せられる要望や意見に対して学校の取組を学校だよりや学校HP等で返答していく。また、次年度から改訂される新しい学校のきまりについて生徒や保護者へ周知し、本校の特徴を継続できるように努めていく。			
IV	健康やかな体の育成	IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		75	82	10	2	26	7	6	0	0	0	19	8	1	0	HPは毎日更新だけでなく行事の際にはタイムリーに更新して、生徒の様子を発信してきた。必要な情報をすぐに探しやすいように今後も情報の整理に努めていく。	依頼したボランティア活動へ西池中生が参加してもらえたことはとても助かった。今後、コロナ禍で地域とのつながりが薄れたしまったのを改善できるようにしていきたいので協力をお願いします。また、小学生の保護者も学校の情報は良く見ており学校選択の資料になっている。今後も力を入れて行ってほしい。	A	生徒の活躍の場を地域へ求めたり、地域の教育力を学校に取り入れることをさらに積極的に推進していく。また、保護者への周知にアプリ等を用いて生徒を介しての周知ではない方法も採れるようにしていきたい。			
			学校は、子ども達の学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。		58	71	15	5	46	7	4	0	0	2	24	4	0	0	「あいさつ」のこたまする西池中のスローガンの通り、あいさつに対する生徒の意識は高くプライドをもって取り組んでいる生徒が多い。さらに教職員からも積極的にあいさつすることを通して自発性を育てていきたい。	あいさつの取組はコロナ以前と比べると地域全体として少し衰退してしまっように感じている。中学生が率先して行う姿勢を見せて欲しい。	B	あいさつの意義や素晴らしさを考える機会を設け、さらに気持ちの入ったあいさつを教職員から行い、いつでも、どこでも、誰に対してもできるようにしていく。			
V	一人一人を大切にす教育の推進	V-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。		54	50	6	4	81	7	5	0	0	1	14	13	1	0			A				
			学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。		61	78	18	7	31	7	4	0	0	2	18	9	1	0			A				
VI	教師力の向上と魅力ある学校づくり	VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。		68	64	12	4	47	7	5	0	0	1	13	15	0	0			B				
			学校は、秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。		73	85	14	6	17	5	6	1	0	1	6	16	6	0			B				
VII	家庭・地域との連携	VII-2	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。		85	86	11	2	11	5	8	0	0	0	13	15	0	0			A				
			学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。		67	89	12	2	25	9	4	0	0	0	21	6	1	0			A				
VIII	特色ある教育活動	VIII-1	学校は、「あいさつ運動」への取り組みに関する教育を推進している。		96	56	8	3	32	10	3	0	0	0	15	11	1	1			B				

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある